

機密

(附屬ホ号)

海領警秘第一三六號

昭和十七年三月二十三日

在海口日本總領事館警察署長代理
外務省警部 藤井忠夫

在海口

總領事 笠原太郎 殿

三亞方面出張報告ニ關スル件

海南島南部方面ニ於テハ昭和十六年四月十日海南警備府開設ト同時ニ三亞ニ海軍々法會議ヲ設置シ在留邦人犯罪ヲモ取締リ居レルガ同地區在留邦人ノ保護取締ハ甚タ不徹底ニシテ殆ント閉却ノ貌ニアリ此ノ間署員ノ定期出張等ニ依リ南部方面事務處理ヲ爲シ來レルモ道ハ其ノ一部分ニ過キスシテ事實上純粹ノ警察務ハ行ハレ

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5)

S 1.1.1.0-53

05

0004

2

居跡家從前ヨリ三亞支部ハ當館署ノ進出ヲ拒否シ來レル由ナルモ何等ノ明文モ取極メモナク軍側ノ爲スガ儘ニ放任セラレアリタル爲メ當館トシテ此ノ儘放置シ海軍側ニ對スル積極的打合せヲ爲サルニ於テハ取締不徹底ノ責任ハ獨リ當館ニ負ハサレ後日問題惹起ノ場合海軍外務相互間ニ面白カラザル結果ヲ生スル惧アルノミナテ當館トシテ甚ダ不利不便ノ點多キヲ以テ別紙半公信ノ趣旨ニ依リ依命定期出張ヲ利用シ特務部三亞支部方面ト事務打合せノ爲三月十四日ヨリ巡查一名ヲ帶同東海岸線經由三亞ニ出張シ十七八兩日ニ亘リ吉元支部長ニ接衝從來館務不徹底ノ點ヲ説明シタル上之レガ善處策私案トシテ巡查二名ヲ特務部内ニ於テ助勤セシメ以テ軍政下ニ於ケル館務ノ萬全ヲ期シ職域奉公ノ實ヲ揚ケ度キ旨申入タル處同支部長ヨリ「申入レノ趣旨ハ諒トスルモ署員ノ常時的進出ハ從來ノ海軍々政ノ根本方針ニ悖ル憾ナシトセザルヲ以テ警備府及上司トモ協議ノ要アルニ付追テ何分ノ回答スル」旨

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5)

S 1.1.1.0-53

06

0005

地區港灣道路事業ニ從事セシムル一部ヲ以テ島内各地ノ軍用道路開鑿ヲ爲シ既ニ環島自動車路ヲ開通シ了シテ海軍港三亞建設ノ必要上三亞地區進出邦人商社等ヲ本年六月榆林ニ移轉セシムル豫定ニテ同地ヲ軍港外廊都市トシテ建設シ將來海南島ノ主都ト人口四十萬ヲ目シテタラシムル如ク都市計畫ヲ樹テラレタル結果從來鹽積出ノ一寒村ニ過キサリシ榆林地區ニ建設關係工員並地元民出役者等ニ依リ時ヲラヌ活況ヲ呈シ之等ノ官役人夫或ハ軍ノ必要ニ依ルモノトシテ概ネ組織的ヲ團體活動ヲ爲シツベアリ其ノ建設工員等ヲ對象トスル物品販賣並接客業者等ノ如キモ實需ヲ滿シ得サル状態ニシテ之等モ亦建設事業ノ一部門ヲ擔當スルモノトシテ必然的ニ海軍特務部ノ指導下ニアル次第ナリ尙海南島駐屯軍當局ノ現地調辨完遂ヲ目標トスル米糧島内確保ノ建前ヨリ農業關係二十八會社ハ海軍特務部ノ積極的指導下ニアリテ引續キ米穀ハ野菜ノ増産ヲ擔當シ又戰時重要資源一鐵鑛一ノ確保ヲ迅速ナラシムル爲石碌田獨三鑛山ノ採鑛、鐵道工事

在海口大日本帝國總領事館

積出港施設等ヲ擔當スル會社モ海軍特務部ノ直接指導下ニテ其當方及陸軍側ニ於テモ斯ノ如キ本島ニ於ケル重要施策ニ對スル海軍ノ軍事的要請ハ充分認メ居ル次第ニシテ海軍側ニ於テモ此ノ間ノ我方努力ヲ遂次認メントシツベアリ從而海軍側ノ意圖スル總督政治ノ實現問題ハ暫ク措カ下シテモ前顯諸事情ニ鑑ミ特務部官制ノ實施ハ早晩何等ガノ形ニ於テ實現スベキ趨勢ニアリ我方トシテハ軍ノ要望即チ國家的要望ニ關シ從來ハ協力的態度ヲ一層強化シ官制實施ニ至ル過度期ニ於ケル外地行政ノ完璧ヲ期スル要アリト思考セラルベキ其間ノ理論ハ別トシテ實際的職務處理上ノ權限關係等ニ付屢々疑問ノ生ズル場合アリ殊ニ軍政的組織下ニ於テハ建設開發ヲ實施シツベシル本島ニ於テハ軍ノ要求ハ極メテ熾ニシテ受命者タル會社等ヲシテ實情判斷ノ餘裕ヲ得シメサル場合ハ生シ易ク此ノ間ニ處スル我方態度ハ極メテ重大ニシテ軍側ノ爲メ多少ノ無理押等ハ海軍側ニ於テモ我方ノ寛容ナル態度措置ヲ特ニ期待セラレツベアリ就中警察事務

在海口大日本帝國總領事館

ニ於テモ軍事目的達成ノ爲ニスル海軍當局ノ諸工作並ニ處置ハ假令
 ソレカ館令等ニ牴觸スルト雖モ積極的協力ヲ要請セラレ居リ支那側
 ニ對スル治外法權的乃至領事裁判的警政的性情ヲ離レ建設途上ニ
 ル島内政務ノ全般ニ對シ陸海外密接ナル關係ノ下ニ軍政的ニ居留民
 關係事務ヲ掌理スル要アリト言フニ在ルカ如ク差當リ今次事變處理
 行因由シ全面的許可制ヲ採ラレ居ル在留邦人ノ營業取扱及邦人渡航
 取扱等モ形式ハ別トシテ實質上ハ本島ノ特殊性ヲ考慮シ北部地方ハ
 三省會議ヲ以テ最後の決定セシメ南部地方ハ海軍特務部支部ニ警備
 府ノ政務處理機關ニ委任セシメ度ト言フニ在リ從而將來總督制ヲ
 採用シ之ニ行政事務ヲ移管セントスル海軍側ノ意嚮ニ對シテハ兎モ
 角強大ナル實力ヲ以テ推進セントスル海軍側ノ希望ニ對シ我方ハ實
 際的ニハ寧ロ積極的ニ協力シ其ノ建設工作ニ寄與スヘク今般海南特
 務部三亞支部ト打合ニ於テモ軍政ヲ云爲スル理論問題ハ別ニシテ
 我方ノ事務取扱ニ對シ相互ノ連絡ヲ密ナラシムルコトニ重點ヲ置キ

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5) S 1.1.1.0-53 15

0014

接衝ヲ進メタルカ今後諸般ノ事務處理ニ付過度期的現象ヲ捕ヘ非
 合法的ニ暗躍セントスルモノハ斷乎排除スヘク又一面飽ク迄職域
 奉公ノ實ヲ揚クヘク折角署員ヲ督勵中ナルカ本件ノ如キハ當地海
 軍側ノ意嚮ヲ反映セルニ一部面ニ過キサルモ其ノ意圖ノ根源ヲ辿レ
 ハ實質的ニハ海軍以外ノ政治力ヲ逐次滅殺廢除セントスルニ在ル
 コトハ容易ニ窺知セラル、處ニシテ之ニ對シ他地方ニ於ケルカ如
 キ法制上ノ領事館ノ權限ヲ主張強行スルニ於テハ正面衝突ヲ來ス
 コト自明ノ理ナリ仍テ左應右事情ヲ報告シ海南島政務處理ニ關シ
 上層部ノ意嚮ヲ承リ置クハ今後ノ態度措置上最モ緊要ナルコトハ
 思料セラル

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5) S 1.1.1.0-53 16

0015

機密

亞三課局長

機密第二一七號

昭和十七年四月十四日

在海口

總領事 笠原太

外務大臣 東郷茂徳 殿

海南島南部方面ニ於ケル領事々務遂行ニ關スル件

海南島ノ政務處理ニ關シテハ閣議決定ヲ以テ三省連絡會議ニ依リ施行スルコト、ナリ居レルモ海軍側ニ於テハ南部地區ハ軍ノ必要ニ依ル理由ヲ以テ一切他ノ容喙ヲ認メザル建前ヲ堅持シ居レルハ當地海軍側幹部ノ本官ニ對スル言明ニ依リテモ承知シ得ラル、所ナルノミ

在海口大日本帝國總領事館

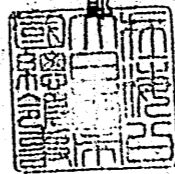
(日本標準規格 B5)

S 1.1.1.0-53 17

東亞局長 第一 本又 葉 附屬添付 記帳簿 17.5.1

昭和拾七年四月廿日

17.5.1



ナラス政務施行ノ實際ニ當リテモ三省會議ニ諮ラス獨斷實行ノ傾向アリ

海軍側ニ於テハ三亞、榆林方面ニ大都市計畫ヲ建テ近ク其ノ一部ノ落成ヲ見ントシツ、アル處右計畫ニ伴フ南部地區在留邦人ノ激増加ハ現狀ニ於テモ兵事々務其他警察及行政事務處理上種々ノ不便不整海軍側ニ於ケル領事館警察ニ屬スヘキ事務代行現狀ハ極メテ不充分ナリ將來都市計畫完成シ人口激増スルニ至ラハ右不便ハ益々増大スヘク本官ノ職務遂行ニモ支障ヲ來ス虞アリト思慮セラレ對策(當館分館又ハ警察派出所設置等)ノ考究中ナリシカ當館藤井警察署長申出モアリ從來直接南部方面行政ヲ擔當シ來タレル海軍特務部三亞支部長吉元中佐ニ對シ警察事務施行ニ關スル打合セヲ爲サシメ旁々南部地區ニ對スル海軍側ノ意圖ヲ打診セシメタル處同部ニ於テハ内面諸種ノ不便困難ヲ感シ居リ且一面純然タル邦人關係事務ニ付權限ナキハ承知シツ、モ南部方面ハ海軍々政下ニアル旨ヲ述べ從前通り

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5)

S 1.1.1.0-53 18

0017

當館ノ南部進出ハ容認シ難キ旨回答シタリ以テ藤井ハ軍政ノ内容
 容ニ理論等ニハ一切觸レズ飽迄在留邦人事務處理ノ徹底完壁ヲ期
 スル爲差當リ警察上可能ナル範圍ニ於テ海軍特務部ニ協調シ同部事
 務ヲ側面的ニ援助スルコトハシ我方事務ニ對スル特務部ノ直接
 斡旋ヲ取極メ置キタル趣ナリ
 事情右ノ如クナルヲ以テ當館警察署乃至分館等ノ進出ハ實際上ノ
 必要適切ナルモノアルヲ認ムルモ(民會、學校等設立セザル、場
 合南部地區ニ對シ當館權限ノ及ザルハヤカテ本島全般ニ對スル館
 務遂行ハ特ニ共通館令等ノ施行)ヲモ困難ナラシムル事例多シ
 前記特務部幹部ノ本官ニ對スル非公式音函明ヲモ考ヘ併シ現地限
 リノ交渉ニ於テハ如何トモ致シ難シト思考セラル、次第ニ付右實
 情御諒知相成度此段報告申進ス
 尙南部方面ニ對シ他ノ政治力ノ介入ヲ認メタル海軍側ノ態度ハ
 軍ノ必要ニ出ツルコト勿論ナルモ四月初往電本島ニ對スル將來

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5)

S 1.1.1.0-53

19

0018

當ノ統治機構以點ヲモ考慮シ出來得ヘクンハ前項括弧内ノ如ク本島
 管全般以問題ニ迄利用セン事スル胆アルヲモ認メテ本島ニ對シ
 追而藤井署長代理ヨリ三重方面出張視察ニ對シ別紙ノ通提出
 事アリ別紙ニ付右添付スル、
 本信寫送付先々南京大使、上海公使
 在海口大日本帝國總領事館

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5)

S 1.1.1.0-53

20

0019

寫

何附

別紙

(附屬カニ号)

海島

拜啓 陳者南部方面在留邦人ニ關スル各種身分取扱其ノ他各種領事館警察事務ニ關シ軍務執筆中ノ貴部ヲ相煩シ悉縮ニ被存候就而今般當館警察署長ヲシテ下記事項等ニ關シ貴部方面ト打合セテ遂ゲンメ、從來法的ニ處分ヲ要スル事項ニ付之ガ手續ヲ怠リ違法ノ行動ヲ取リツ、アル在留邦人ノ不便ヲ除キ内地行政ニ直接關聯アル外地行政事務ノ圓滑ヲ期シ度ニ付右御諒承ノ上貴見御示教賜度此段及申進候也

記

兵事關係事務

- (イ) 兵役事務取扱上在留者登記ハ完竣ヲ期スル要アル處、從來届出遅延或ハ未届等在留事務ノ滯シアル點(詳細ハ口頭)
- (ロ) 兵役法上ノ諸願届ハ最モ急速ヲ要スルニ不拘之ガ記載事項ノ不備訂正(過去ノ例ニ徵セバ約三割ハ不備)等ニ關シ相當日數ヲ要スル點

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5) S 1.1.1.0-53 21

0020

戶籍事務

- (ハ) 兵事關係諸證明(例ヘバ徵兵旅費ニ關スル里程證明、旅費立替證明、旅行日程船車關係事實證明)ニ就テ
 - (イ) 出生、死亡等身分異動ニ關スル諸願届ノ受理等法的効果ニ直接影響アル事項ノ處理ニ就テ
 - (ロ) 在留者ニ於テ證明ヲ要スル事項ニ付正規ノ手續ヲ履マザル爲應々内地方面ニ於テ違法トシテ處斷セラル、等ノ點(遺骨證明等)
 - (ハ) 在留届ハ略確實ニ勵行セラレツ、アルモ退去届ニ至リテハ全然放任セラレ居ル向多シ、換言スレバ南方ニテ乗船スルモノハ無届ニテ退去スルハ勿論無證明ニテ乗船スル者多キ爲退去ノ事實ヲ知ル能ハズ
- 保安關係事務
- (イ) 營業許可取扱等ニ關スル諸調査モ特務部方面ヲ煩ハシ居レ

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5) S 1.1.1.0-53 22

0021

REEL No. A-0255

アジア歴史資料センター

極秘

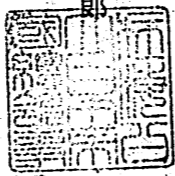
東亞局長

極秘第三九六號

昭和十七年七月十六日

在海口

總領事 笠原 太郎



外務大臣 東 郷 茂 徳 殿

海軍側聯合討伐作戰ノ敵側ニ與ヘタル影響ニ
關スル件

本年二月行ハレタル海軍側ノ本島討伐作戰ノ敵側ニ與ヘタル影響
ニ關シ當地陸軍側作成ニ係ル調書御參考迄別添送付ス
本信寫送附先 南大、廣東、厦門
上海

在海口大日本帝國總領事館

1.1.1.0-53 0023 24

ルガ調査内容其他ニ關シ一々郵便連絡ヲ要スル等手續遅延
ニ依ル民間ノ不便多キ點
(ロ)銃砲火藥類(刀劍ヲ含ム)ノ取締徹底ヲ期シ度キモ南部上
陸者中ニハ應々手續未了ノ儘所持携帯スルアリ之等ニ對シ
テモ貴部ニ一任スル他ナキ現狀ニアル點
(ハ)銃砲火藥ヲ使用シ未届ノ儘放任スルモノ多キ點
衛生關係事務
(イ)傳染病ニ關シテハ内外地各港緊密ニ連絡ヲ要シ其ノ發生ニ
際シテハ電報ヲ以テ即報シ爾後終熄ニ至ル迄週報ヲ要スヘ
キ所之等連絡事務停滯ノ已ムナキ點
其ノ他(詳細ハ口頭)

昭和十七年三月十一日

在海口

總領事 笠原 太郎

三亞海南海軍特務部
吉 本 支 部 長 殿

在海口大日本帝國總領事館

(日本標準規格 B5)

1.1.1.0-53 0022 23

松支政第六五號

「セ」號作戰卜期ヲ一ニシテ行ハレシ海南島海軍聯合討伐並ニ六作戰ノ敵側ニ與ヘタル影響送付ノ件

昭和十七年七月十日

海南島陸軍司令部政務班

在海口日本總領事館 御 中

首題ノ件參考迄別冊ノ通り送付ス

在海口大日本帝國總領事館

0024

25

S 1.1.1.0-53

「セ」號作戰卜期ヲ一ニシテ行ハレシ海南島海軍聯合討伐並ニ六作戰ノ敵側ニ與ヘタル影響

在海口大日本帝國總領事館

0025

26

S 1.1.1.0-53

目 次

第一 本次作戰ノ概略

第二 敵ニ與ヘタル影響

一 敵ノ内部的動向

 I 抗戰意識ノ低下

 2 保共協力

 3 和平地區部落ノ襲撃

 4 兵力及武器彈藥ノ缺乏

 5 和平地區向物資搬出禁止

二 經濟的方面ノ動向

 I 敵國紙幣流通狀況

 2 物資糧秣ノ缺乏

 3 秘密輸狀況

在海口大日本帝國總領事館

S 1.1.1.0-53 27 0026

第一 本次作戰ノ概略

一 大東亞戰爭勃發以來香港馬來フィリッピン蘭領印度ビルマ等廣大ナル戰線ニ於ケル皇軍ノ赫々タル戰果ニ今更乍ラ敵首腦部モ驚愕ノ感ヲ深メ抗戰ノ無意味ナルヲ次第ニ認識セシメツ、アリシモ一方亦斯ル廣大ナル地域ニ亘ル戰線ノ確保ノタメニハ當然皇軍ハ膨大ナル兵力ヲ要スルヲ以テ支那大陸各地カラ兵力ヲ撤退シテ之ニ充當スルハ勿論海南島モ逐次撤退スルモノト誤信シ唯一ノ希望ヲ茲ニ繫キ居タル折柄中南支軍兩々相呼應セル雄渾極リ無キ今夫大陸作戰ノ遂行ニ當依リ彼等ノ望モ全ク斷タレ其ノ志氣ハ頓ニ衰へ現在ニ於テハ如何ニ自己ノ餘命ヲ確保シ得ルヤニ汲々タルノ状態ナリ

二 斯ル精神的動搖ノ氣色次第ニ徴セル時海南島海軍部隊ハ五月ニ入ルヤ全島ニ亘リ三次ニ及フ聯合討伐ヲ實施シテ敵ノ據點ヲ壊滅シ敵ニ立直ル邊モ與ヘス六月ニ入ルヤ直ニ五六作戰ヲ敢行シ敵兵力

在海口大日本帝國總領事館

S 1.1.1.0-53 28 0027

ヲ覆滅セリ
此ノ五六作戦ニ依リ海軍部隊ハ敵全線據點ニ進駐シ我占領地域ヲ
擴大シ敵匪奥地トノ連絡ヲ遮斷シテ民衆ノ治安ヲ確保セリ更ニ此
ノ作戦ノ重要性ハ第一期米收穫時ノ斷糧作戦ヲ兼ネル所ニ存在ス
斯クシテ本作戦ノ敵側ニ及ホシタル打撃ハ物心兩方面ニ亘リ極メ
テ甚大ナリ

第二 敵側ニ及ホシタル影響

一 敵ノ内部的動向

1. 抗戰意識ノ低下

大東亞戰爭ニ於ケル世界戦局ニ依リ彼等ハ抗戰ノ無意味ヲ漸次
察知セシ折柄殊ニ今次五六作戦ニ於ケル彼等現實ノ敗滅ハ斯ル
考ヘテ愈々深メ最近歸順者漸増ノ傾向ヲ見ル彼等ノ中ニハ和平
ヘノ熱烈ナル渴望ヲ有スルモノ少カラス唯彼等ノ危惧スル處ハ
歸順後皇軍ノ彼等ニ對スル處置ノ如何ニシテ敢テ歸順ヲ遲疑ス

在海口大日本帝國總領事館

S 1.1.1.0-53

0029

0028

ルノ原因モ茲ニ存スルモノナリト言ハル
義ニ挺身我軍ニ歸順セシ游擊隊大隊長ハ彼ノ歸順ノ動機ヲ次ノ
如ク述懐セリ

「最近日本カ大東亞民族解放ノ爲我々支那民族ノ爲ニ決然トシ
テ躍起シ米英ヲ完膚ナキ迄ニ粉碎亞細亞カラ米英勢力ヲ驅逐セ
ル現在ニ於テ同シ東亞民族カ權争フハ實ニ人類ノ不幸此ノ上ナ
キラ痛感シ一日モ早ク和平運動ニ盡力スヘク決意シテ歸順セリ
他ニ歸順者希望者モ可成リ存スルモ唯其ノ適切ナル手段ノ選擇
ニ苦シミ且歸順後ノ處置ヲ危惧シアリ」

2. 保 共 協 力

大陸ニ於ケル國共關係ヲ反映シ海南島ニ於テモ保安團ト共產黨
トノ相剋ハ依然トシテ絶ユルコトナク我軍ニ抗戰ヲ叫ビ乍ラモ
彼等ハ互ニ相對立シ又戦火ヲ交アルコト數次ニ及フノ状態ナリ
シモ東亞ニ於ケル態勢ト今次五六作戦ニ依ル敗滅及海軍ノ奥地

在海口大日本帝國總領事館

S 1.1.1.0-53

30

0029

進駐更ニ兵力抗戰意識ノ低下ニ依リ保共兩者共ニ自己ノ餘命ヲ保持スルニ大童ノ情勢ニシテ最近旺ニ保共接近カ喧傳セラレアリ一部情報ニ依レハ最近保共協力會議カ開催サレント言フ勿論完全ナル保共協力カ實現スルヤ否ヤハ疑問ナルモ右ノ如キ情勢ニ加フルニ共產黨總隊長ノ死没ニ依ル黨内ノ不統一ハ或ハ之カ實現ヲ可能ナラシムルニ非スヤト思考サル然シ若シ之カ實現スレハ夫ハ全ク共產黨ノ滅亡ヲ意味スルモノナリ

5、和平地區部落ノ襲撃

Y六作戰ニ依ル海軍ノ奥地進駐ニ依リ敵側殊ニ共產匪ハ其ノ居ヲ失ヒ爲ニ陸軍警備地近ク逃レ來リ最近屢々和平地區部落ノ襲撃事件カ頻發スルノ情況ニシテ美林舖警備隊當面ニ於テ特ニ活潑ナリ

然ルニ彼等ノ襲撃ハ常ニ物資ノ掠奪ヲ企圖シ部落ヲ襲撃シテ良民ヲ脅迫又ハ殺害シ糧食等ヲ掠奪ス之ヲ見テモ如何ニ彼等カ必

在海口大日本帝國總領事館

S 1.1.1.0-53

31

0030

需物資ニ缺乏シ其ノ生活ニ窮セルカラ窺知シ得ルニ充分ナリ將ニ敵匪最後ノ足搔トモ言フ可キナリ

4、兵力及武器彈藥ノ缺乏

近時敵側ハ著シク兵力ノ不足ヲ來シ敵側部落ノ民衆ヲ強制的ニ徵用シテ之ニ充當シ更ニ兵器彈藥ノ缺乏ハ彼等ノ最モ奮厲心セル所ニシテ大陸ヨリノ密輸ニ全力ヲ注キ一方部落襲撃ノ際隱匿兵器ヲ掠奪スル等ノ手段ヲ構シ専心之カ打開策ニ専念シアリ

5、和平地區ヘノ米穀搬出禁止ノ強化

最近陸軍占據地域附近ニ逃來セシ共匪ハ附近住民ヲ脅喝シ和平地區ヘノ米ノ搬出ヲ強制的ニ禁止シ其ノ活動ハ一時極メテ活潑トナリシ爲農繁期ノ米搬出量ノ減少ト相俟テ海口ニ於ケル土產米ノ供給ハ低下シ一時的價格暴騰ヲ現出セシモ數日ニシテ漸次落着ヲ見タリ

ニ經濟方面ノ動向

在海口大日本帝國總領事館

S 1.1.1.0-53

32

0031

1、敵側通貨流通状況

瓊崖守備司令王毅ハ我經濟封鎖ニ依ル經濟的窮迫ニ對應スヘク
曩ニ王毅ノ名ヲ印刷セシ所謂「王毅紙幣」ヲ發行シ法幣ト共ニ
駐屯地域内島民ニ使用ヲ強制シ軍票ノ使用ヲ嚴禁シ來レリ
然ルニ最近ノ情勢ハ却テ王毅紙幣ノ流通面大ナリトイフ即チ從
來ノ中國中央兩銀行紙幣ハ大額ノモノ多キヲ以テ生活程度低キ
島民ニハ使用不便ナル上更ニ交換ナキ爲古クナリ其ノ價值極メ
テ下落セシニ反シ王毅紙幣ハ少額券殊ニ一圓紙幣多キニ加ヘ紙
幣新シキヲ以テ次第ニ流通面擴大セシモノト思考セラル
今次Y六作戰ニ依ル島地進駐ニ依リ次第ニ右ノ如キ敵側通貨ノ
流通層ヲ蚕食シ次第ニ軍票ノ流通面ハ擴大シツ、アリ

2、糧秣其他物資ノ缺乏

近時我經濟封鎖ニ依リ敵側物資ハ可成リ窮乏狀況ヲ告ケツ、ア
リシモ更ニ今次海軍ノ奧地討伐ニ依リ重要地點ハ悉ク蹂躪セ

在海口大日本帝國總領事館

0032

33

S 1.1.1.0-53

ラレ其ノ生命路全ク斷絶セラレシ爲糧食ノ獲得ニモ亦一大支障
ヲ來シ殊ニ最近ノ糧食不足ハ益々深刻化シツ、アリシ爲幹部ハ
愈々周章狼狽シ之カ打開策ニ腐心中ニシテ一部情報ノ齎ラス所
ニ依レハ物資ハ駐屯地附近部落ヨリ強制的割當トナス事ニ決定
セリト言フ

更ニ物價ハ勢ヒ高騰セシ爲王毅ハ紙幣發行額ヲ激増シ團員ニ對
シ物價手當ヲ支給シアリトイフ

3、密輸狀況

前述ノ如ク極度ノ物資缺乏ノ爲之カ打開策トシテ密輸ノ積極的
ニ重點ヲ指向シアル現狀ニシテ我封鎖線ヲ漏過スヘキ巧妙且
組織的ナル手段ヲ考究實施中ナリト
次ニ最近實施中ナル密輸ノ具体的方法ヲ述ブレハ保安團々部ニ
ハ無電機ヲ有シ常ニ大陸トノ連絡ヲ行ヒ若シ大陸ヨリ武器彈藥
其他軍需品ヲ海南島向發送スレハ之カ到着時地點等其ノ旨保安

在海口大日本帝國總領事館

0033

34

S 1.1.1.0-53

秘

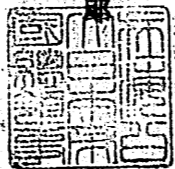
第三部

東亞局長
秘第四〇三號

昭和十七年七月二十日

在海口

總領事 笠原 太



外務大臣 東郷 茂徳 殿

海南島ニ於ケル七、七紀念日狀況ニ關スル件
本件ニ關シ當館警察署長ヨリ別添ノ通査報アリタルニ付此段報告ス
本信寫送付先 北中支警務部、廣東

在海口大日本帝國總領事館

6 1.1.1.0-53

36
0035

17.8.23

第一課

附屬送付

記帳済

昭和十七年八月廿五日接

團々部又ハ守備司令部ニ打電シ來リ警戒兵ヲ以テ大陸ヨリ海南島ニ至ル海上輸送ノ萬全ヲ期シ一方保安團又ハ守備團ハ到着地點ニ運搬隊員ヲ派遣シテ之カ受領及島奥地向運搬ニ任センメ其ノ警戒兵力ハ物資ノ重要性ニ應シ多寡アルモ重要軍需品ハ一ケ連乃至一ケ營ヲ以テ之ニ當ルヲ通常トス一方大陸ヨリノ海上警戒兵ハ物資引渡後ハ再ヒ大陸ニ歸航ス

終

在海口大日本帝國總領事館

6 1.1.1.0-53

35

0034

秘第403號

昭和十七年七月二十日

在海口日本總領事館警察署長

外務省警部 藤井忠夫

在海口
總領事 笠原太郎殿

管下七七紀念日狀況之聞スル件

七七紀念日ヲ中心トスル抗日陣營ノ奮動如何ハ本島敵側抗
戦力測定上極メテ重要ナルヲ以テ銳意查察整戒ニ努メタル處
海口地區ニ於テハ極メテ平穩ニ経過シタルモ其他、本島北部地區
ニ於テハ主トシテ共匪ノ蠢動及抗續出シ未ク敵匪圍抗戦力是
階ニ難キモノナリ本島治安確立ニ伴フ本島全面船諸建設ハ

前途遠達ナルヤニ看取ラレ、次第ニシテ現在迄判明セ本島
ニ於ケル七七紀念日狀況左記ノ通り此段報告ス

記

一 海口地區七七紀念日狀況

海南島ハ鐵資源、開發及南方共榮圈樞軸地トシテ、各
部門ニ互ニ諸建設ハ日ヲ遂テテ本島格別トナリ日華軍官民共
職域ニ執掌シ、極メテ緊張裡ニ事變第五週年紀念日
ヲ迎ヘタル次第ニテ大東亞民族十億ノ興亡盛衰ヲ決スル大東亞
戦完遂ヲ祈念シ島由日華両民族相携フテ大東亞興隆ノ爲
献身セトスル誓ヲ新ニスル各職ノ行事ヲ行ヒタリ
則チ海口地區在留邦人ハ當館指導下ニ七月八日、大詔奉戴
日ヲ期シ官民合同、大詔奉戴式ヲ舉行シ總領事代理金子

S 1.1.1.0-53

38

S 1.1.1.0-53

39

0036

大詔奉讀後、僑民會長ヨリ紀念日ニ對スル居留民ノ覺悟ヲ
促ス熱烈ニ訓示テ、續テ當署指導、時局訓練「防空救護」
訓練ヲ實習シ、更ニ同夜ハ區常會及隣保會ヲ開催シ、當署
員ヲ各班ニ配屬セシメ奉公運動、實踐、戰時生活、懇談指導
ヲ行ヒ多大ノ效果ヲ收メタリ

一方中國側ハ新聞及刊行物等ヲ利用シ「七七紀念日ハ所
謂中日合作ノ發端ニシテ、換言スレハ日華相携ヘテ亞細亞ニ
對スル米英百年ノ支配ヲ破摧シ、東亞解放ヲ完成シ、中國
復興ニ乘出シタル日ヲ以テ當日ヲ「興亞節」ト爲ス旨ヲ宣傳
スルト共ニ同共苦以テ興亞理論、實踐ニ對スル覺悟ヲ新ニシ
奉公志私廉潔政治「向善誠實」等、スローガンヲ樹テ大
東亞新秩序建設ニ對スル責任ヲ分担セントスル決意ヲ表明

ニ政府轄下各機關團體毎ニ所屬民衆指導ヲ實施シ紀念
日當日ハ戸毎ニ日華兩國旗ヲ掲ケ興亞節ニ對スル民意ヲ表
明セリ、因ニ同夜海口中大同戲院ニ於テ陸軍報導部主催ノ
下ニ宣傳興行ヲ行ヒ多大ノ效果ヲ收メタリ

尚地方治安ノ狀況等ニ鑑ミ、當署ニ於テ各方面匪團ノ動向
偵知ニ努ムカント共ニ警戒管制下ニテ、海口地區ニ對シ謀略テ
口行意等ヲ防遏スル爲七月二日ヨリ特別警戒ヲ實施ミタル結果
海口地區ハ極メテ平穩ニ終過セリ

ニ管下地方ニ於ケル狀況
奧地匪區方面狀況ヲ一瞥スルニ、國軍側ハ依然積極的抗
戰ヲ行ハス、僅ニ奧地塔踞地ニ齟齬シ居レルカ、各月平備團ノ
編成セル挺身隊長、歸順取調ニ依リ國軍側ハ彈藥、損

耗ト曰軍ノ及撃ヲ慮リ終テ皇軍ニ對スル及攻ヲ行ハサル
方針ニ趣判明セリ

然レニ琼崖共産党ハ党機関紙「抗日新聞」及「新琼崖」等
ヲ以テ七月政勢ヲ呼號宣傳シ「七月一日ハ中國共産党二十一
週年紀念日ニ當リ琼崖共産党十六週年紀念日ナリ又七月
七日ハ中國民族革命戰爭第五週年紀念ニ當ルト爲シ琼
崖建設抗日紀念ノ意メ七月ヲ期トシテ團結力量完成ニ
作ス」トシ「スローガン」ヲ掲ケ

ノ獨立隊(常備隊)後備隊基幹隊補充隊等紅軍
武裝力量ヲ檢閲シ以テ全琼抗日軍隊ヲ統轄シ琼人勝利
言合ハヨク宣傳ミツ

空軍前大規模ノ建軍運動ヲ進メト共ニ民衆護軍

運動ヲ展開シ党場強ヲ劃策スルニ亦七七紀念日前
後ヲ通シ左ノ通り各地ヲ擾乱セリ

月	日	場	所	事
七	三	乾橋	嶺南	匪二百餘名共匪電線切斷(確赫附近三五里)
七	六	珠山	南	共匪百餘名放火掠奪殺害
七	七	珠山	南	日軍自備隊道次阻止、爲共匪救百 名ヲ射殺シ、行動開始シ、梁少橋標 及能流河橋ヲ破壞セリ
七	八	文昌	縣	共匪等ニ支隊長吳克玉第四支隊長張 開等率三支隊長陳啓輝率下六百名、攻 擊市西ノ二支隊長、所ニ七日大敗、被襲擊 、中、受テ珠山縣全境、市、西、進駐シ、指 報ニ襲撃、努力シ、八日午後十時、突大攻 城、守、包圍攻撃、活、守、維持、會長符星輝
七	二	塔	市	午、前、塔、時、十分、全、五、時、十分、塔、間、輕、機 二、有、共、匪、四、百、名、塔、中、自、衛、軍、一、百、餘、名 擊、共、匪、射、殺、二、六、名、傷、多、數、自、衛、軍、五、傷、六

七、 五、 咸諒市

七月五日午前零時十分頃匪首不明共產軍
三百八咸諒市自衛軍ヲ襲撃文戦二時間
半ニシテ撃退セル共匪連素死体三隊中隊長
ヲ合々員傷四自衛軍戦死一員傷四

右如ク自衛軍警備地區ニ對スル襲撃隊等ハ從來ニ其例
ヲ見サル積極性ヲ示ミタル之ヲ以テ共軍自ラ抗戦力量ヲ確認
スルコト、モナリ一面ハ從來我々警備地區ニ對スル策謀ヲ平控中
ノ保安團守備團等ニ對スル影響極ク重大ナルモノアリト認
メラル

因ニ大敵被襲撃ニ際シ共匪、撤布シタル宣傳文譯在通リ

S 1.1.1.0-53

43

0039

譯文

抗戦五周年ニ當リ全ソ連同胞ニ告グ
各界ノ同胞ヨ

我國ノ神聖ナル抗戦ハ己ニ五年ヲ堅持シテ来タ此ニ五年
間ニ於ルモ爾ハ會員ニ中華民族ノ独立ト解放基礎ヲ築キ
上タテタル此ハ毫毛疑ヲ余地ナク即チ抗戦ノ最後ノ勝利
ハ日ハ我方ニ列来シタルテアル
今年ハ七七ノ紀念日ニ際シ現在ノ國際的環境ヲ見ルニ
方面ニ於テ及履各側戰線ハ進來シ我軍固トナリテ更

ニ對英米等ノ反侵略強國ハ親密ノ度ヲ加エ打テ
トナリ復托洛夫ノ如キハ英米ヲ訪問シテ結果英蘇新協
定ヲ締結シ米對蘇援助新方案成立シテ其ノ効果ハ

一方面ハヒトナリ我軍攻勢ヲタルケ彼ノ第一次猛攻ハ
不心ヲ蘇朕ノ紅海海陸空軍ニ撃碎セリ彼ニ多大ノ犠牲
ヲ出ヌミテタル之ニ及シ英米等ノ同盟國ハ加速的ニ
ソシヨレ死ト蘇朕ノ勝利ヲ促シテ政州ニ新戦場ヲ醸
シ軍事上蘇朕ト合ヒヒトナリテ扶撃シヤウトシテキル

シ此ノ新戰場ニ火蓋ヲ切ツテハ伊太利ノ運命ハ彼落
ノ一途ヲ廻ルデイヤウ 我々伊太利ノ暴虎ノ進付キツアルヨ
志シテハナラナイ 彼等侵略國瘋狂ハ將ニ絶頂ニ達セントシテ
其ノ独逸ノ種々ノ手段ヲ用ヒ日本ヲ西伯利亞戰場ニ引誘セ
ントスルニ及シ英米友軍同盟國ハ積極的ニ武備ヲ強化シ
最近日本ニ對シ全面的大反攻ヲ施行セントシテナル 反攻ノ機
到ニハ日本ハ忽チ西伯利亞戰場ニ否応ナク飛込ニテ行クナリ
レバナラナイデアラウ 斯ル時ニ日本ハ果シテ何程耐ヘルカ
潰滅スルノ火ヲ見トリ明瞭ナル

次ニ海商島及國內ノ状況ハトウテアルカ 現在我國ノ抗戰
形勢ハ最モ重大ナル段階ニ至リ今年北ト云ハナラレバナラナイ
何故ナレト云ヤコトナルカ 北トハ已ニ裁斷サレ外資ノ持
入ハ容易ナク抗戰物資ハ日ニ少ク及ニ奉クシ民衆ノ生
活困難ハ海潮ノ如ク澎湃トシテ抑々ヤリテアル 日本ハ
大正以來ナリニ特約勝利ヲ獲得シテニ乘シ我國ニ對シテハ
軍事上政治上經濟上長シ絶凡ニル方面ニ於テ益々压迫ヲ加ヘ
以テ我々ノ不復可復略的目的ヲ達セトシ一切
ノ親日奸漢ヲ動員シ我國諸ノ破壞内争ヲ挑發シ活動

シテキル其し故民等が因詰り問題、何日迄も國柄合作が出
出来ナイデアル。殊に抗戦内第ハ今、最大危機ニ瀕シ
テキルト云ハナレバナイ。今日敵が一步ニ歩ト深入リヌルニ際シ
尙未ダ党派内争ヲ解消スルニ至ラズ局面、因詰り之亦恢
復ヲ見ス。今回保身第七團長董伯然ヲ独立隊ノ派出セル
談判代表 林耀族氏ヲ殺害シテヨリ、兩党ノ局部的對立
ハ一層激化シ内紛ノ利勢愈々悪化シテトハ憤慨ニ堪ヘナイ
外患日ニ甚シク内争未ダ鎮マズ、殊に三百萬同胞ハ
何夜ニテスバカカノ想ハハ城ニ斷腸ノ慨アリ其ノ悲筆書

ニ置セズ其悲衷哀恫ヲ、殊ニ現今國內外形勢均シク重
大ナル極下境下ニ置カレ我々ハ第五年目ノ七七七紀念日ニ當
リ將來ニ對シテ、何ハ何ナルカ、云ハズモナイ目前
一切ノ困難ヲ克服シ勝利ノ到來ヲ速クニセバナイ
本府特ニ全珠同胞ヲ喚ビ起シ今後尙一層徹底の抗戦
ニ奮闘スルヲ望ムニ至リテ、以下

海南海南運市三四号
昭和十七年七月十六日

海南海南三省連絡會議

教科書發行二件ノ處置事項別紙ノ通り定ム

(別紙送)

在海口日本總領事館

0044

東亞局長
第一課
記帳済附屬添付

普通第四二〇號
昭和十七年七月二十三日

在海口
總領事 笠原太

外務大臣 東 柳 茂 德 殿

海南島人用教科書發行處置ニ關スル件
七月十六日當地三省連絡會議ニ於テ海南島人用教科書發行處置ニ關シ
別添ノ通決定シタルニ付右報告申進ス
本信寫送付先 南大、上海、廣東、厦門、汕頭

在海口大日本帝國總領事館

0043

海南連才三四号

昭和十七年七月十六日

海南島三省連絡會議

教科書發行二件ノ處置事項別紙ノ通り定ム

(別紙添)

(終)

在海口日本總領事館

0044

S 1.1.1.0-53 51

普通第四二〇號

昭和十七年七月二十三日

在海口

總領事 笠原 太郎

外務大臣 東 鄉 茂 德 殿

海南島人用教科書發行處置ニ關スル件

七月十六日當地三省連絡會議ニ於テ海南島人用教科書發行處置ニ關シ
別添ノ通決定シタルニ付右報告申進ス

本信寫送付先 南大、上海、廣東、厦門、汕頭

附屬添付

拾貳日

17.8.19

17.8.13

17.8.17

0043

(日本標準規格形)

S 1.1.1.0-53 50

在海口日本帝國總領事館

(別紙) 教科書發行ニ伴フ處置事項
一、教科書整備方針

本島初等教育ノ現状ヲ見ルニ教科書其、他ノ教辦物ハ甚カシク不整備ノ状態ニアリ、依テ之ヲ整備セサルハ教育ノ効果ヲ容易ニアケ得サルコト明ナリ。昨年秋訓導ヲ各地ノ小學校ニ配置スルヤ日本語教授ニ対スル應急的措置トシテ日語捷徑(台灣總督府編纂)新國語教本(台灣教育會發行)ヲ配當シ、更ニ其ノ後中國語ニヨル教科書トシテ主トシテ廣東治安維持會編纂ニ係ル修身、國語、算術、常識等ノ教科書ヲ配給シ現在ニ至レリ。然レ共之等教科書ニ盛ラレタル内容中ニ本島ノ自然的、地理的、環境ニ副ハサルモノアリ。又本島ノ初等教育ニ即應セサルモノアリテ之ガ實際的取扱ヒニ際シ不便困難ヲ感ズルコト尠カラズ。依テ本年度ヨリ左記方針ニヨリ教科書ヲ整備セントス。

在海口日本總領事館

(1) 日本語ニヨル教科書

日本語ニヨル教科書ハ日本語讀本(一一一)音樂教科書(一一六)ヲ毎年度順次編纂發行シ本年度ヨリ六年ヲ以テ完了ス。又教辦物トシテ本年度及ヒ來年度ニ於テ日本語讀本掛圖(一一四)ヲ發行ス。

(2) 中國語ニヨル教科書

中國語ニヨル教科書ハ修身(一一一)國語(一一二)算術(一一三)常識(一一八)ヲ昭和十八年度ヨリ順次編纂發行ス。尙一本年度ハ應急的措置トシテ廣東治安維持會發行ノモノヲ復寫配給スルコトニス。

二、著作權並ニ發行權

新ニ編纂セル教科書ノ著作權並ニ發行權ハ海南海軍特務部之ヲ有ス。

在海口日本總領事館

三、教科書審査會

新ニ編纂セル教科書ハ教科書審査會ノ調査ヲ經テ發行スルヲ原則トス 教科書審査會ノ規定ヲ別紙ノ通定ム

四、發行及ヒ配給ノ方法

教科書ノ發行及ヒ配給ハ之ヲ博文館洋行ニ命ス 但シ教科書ノ定價ハ發行ノ都度著作權者之ヲ決定ス

五、昭和十七年度出版豫定教科書

昭和十七年度新ニ編纂發行セントスル教科書ハ左ノ如シ

- ニッポング 一 (日本語讀本) ニッポング 掛圖 一
- " " 二 (" ") " " " "
- ウタノホン 一 (音楽教科書) " " " "

六、昭和十七年度出版豫定教科書ノ經費

前項各教科書發行ニ要スル經費ハ大凡左ノ如シ

在海口日本總領事館

品名	數量	單價	金額	實費單價	指定單價
ニッポング一 製版代	五三	五〇〇〇	二六五〇〇	〇・二九二	〇・二〇
全 印刷代	二〇、〇〇〇	一六	三二〇〇〇〇		
ニッポングニ 製版代	五五	五〇〇〇	二七五〇〇	〇・三〇七	〇・二〇
全 印刷代	二〇、〇〇〇	一七	三四〇〇〇		
ウタノホン一 製版代	三〇	五〇〇〇	一五〇〇〇	〇・一六五	〇・一二
全 印刷代	二〇、〇〇〇	九	一八〇〇〇		
ニッポング掛圖一 製版代	二〇	八〇〇〇	一六〇〇〇	一八〇〇	一二〇〇
全 印刷代	二〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇〇		
ニッポング掛圖ニ 製版代	二〇	八〇〇〇	一六〇〇〇	一八〇〇	一二〇〇
全 印刷代	二〇〇	一〇〇〇	二〇〇〇〇		

抑々初等教育用教科圖書ノ定價ハ一面初等教科ノ本質ニ鑑ミ、亦他面本島民衆ノ一般生活狀況等ヲ考慮シ、前表ニ示シタル指定單價ヲ以テ適當トス。尚前表ニ明カナルカ如ク、實費單價(販賣定價ハ之ニ

在海口日本總領事館

幾分、利潤ヲ加ヘタルモノト指定單價トノ間ニハ現狀ニ在リテハ稍
大ナル懸隔アルモ發行部數逐次増大スルニ連レテ單價單價ハ遠減
シ發行部數一〇〇〇〇冊ニモ及バ兩者ハ相近似スルニ至ルベシ
斯ノ如キ事情ナルヲ以テ發行部數カ増大シテ前述ノ如キ關係ニ至ル
ノ間ニ在リテハ發行部ニ補助金ヲ支出シ以テ指定單價ヲシテ販賣セ
シムルコトヲ要ス
昭和十七年度出版教科書ニ對シテハ前表ニ掲ケタル各種製版代ニ
相當スル左記金額ヲ補助スルヲ要アリ

一金 一〇、一〇〇圓也

記

在海口日本總領事館

S 1.1.1.0-53

56

0049

別紙

教科書審査會規定

第一條 學校教科用圖書ヲ審査セシムル為海南海軍特務部
ニ教科書審査會ヲ置ク
第二條 教科書審査會ハ會長一名、副會長一名、委員若干名ヲ
以テ之ヲ組織ス
前項委員ノ外必要アル場合ハ臨時委員ヲ置クコトアルベシ
第三條 會長ハ海南海軍特務部政務局長、副會長ハ同政務局
才三課長ヲ以テ之ニ充ツ
第四條 委員ハ陸軍警備司令、指定スル將校一名、大日本帝國總領事
ノ指定スルモノ一名、及海南海軍特務部ニ在職セルモノ、中ヨリ
海南海軍特務部總監ノ指定シタルモノヲ以テ之ニ充ツ
臨時委員ハ特務部職員ニアラサル者ニシテ適當ト認めラルル者ヲ
總監依囑ス

在海口日本總領事館

S 1.1.1.0-53

57

0050

第五條 會長ハ會務ヲ統理ス

會長事故アルトキハ副會長 副會長事故アルトキハ出席委員中
適當ト認めラルモノ其ノ職務ヲ代理ス

第六條 審査會ニ書記若干名ヲ置キ特務部職員中ヨリ總監之ヲ
命ス 書記ハ會長又ハ副會長ノ命ヲ承ケ庶務ヲ掌ル

(終)

在海口日本總領事館

S 1.1.1.0-53

(58)

0051

REEL No. A-0255

0325

アジア歴史資料センター

東亞局長

第一課

昭和拾七年八月廿五日接受

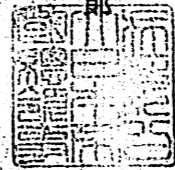
普通第四二二號

昭和十七年七月二十三日

在海口

總領事 笠原 太郎

外務大臣 東郷 茂徳 殿



瓊崖臨時政府三週年紀念日狀況ニ關スル件

七月十七日政府成立三週年紀念日ヲ迎ヘタル瓊崖臨時政府ハ同日午
前九時ヨリ同政府會議室ニ於テ日本側三省ヨリ藤原海軍大佐、松尾
陸軍中佐、總領事代理(金子)ノ列席ノ下ニ極メテ嚴肅裡ニ三週年
紀念式典ヲ舉行シタルカ式中趙委員長ハ三年前ヲ回顧シ此ノ間總ニ
ル點ニ飛躍的發展ヲ遂ケタル現在ノ海南島ヲ指摘シ友邦日本ノ唱導
スル東亞共榮圈ノ意義ト現世界大動亂ニ於ケル日本ソ毅然タル戰果

在海口大日本帝國總領事館

5 1.1.10-53 59 0052

ト態度ヲ稱揚シ東亞民族永遠ノ福利ノ爲メ國ヲ擧ケテ努力スル友邦
日本ヲ盟主ニ東亞民族ハ一致團結スヘキ秋カリト結ビタルニ對シ
藤原大佐ハ世界戰爭ノ容態ト世界ノ大勢並ニ東亞共榮圈確立ノ意義
ヲ強調シテ滿堂ニ深キ感銘ヲ與ヘ同十一時盛會裡ニ終了セリ
續イテ同政府主催ノ一般祝賀行事ハ正午ヨリ體育場ニ於ケル籠球、
ピンポン兩大會、午後七時ヨリ祝賀宴(日本側三省代表臨席)同九
時ヨリ大同戲院ニ於ケル藝能大會等ニシテ何レモ盛會平穩裡ニ終了
セリ

尙支那側ハ當日戸内毎ニ日支兩國旗ヲ掲揚シ祝意ヲ表セリ

右報告申進ス

本信寫送付先 南大、上海、廣東、廈門、汕頭

在海口大日本帝國總領事館

5 1.1.10-53 60 0053